

社会貢献

琉球大学(沖縄)サブユニットセンターでは、衛生学・公衆衛生学講座、育成医学(小児科)講座、医学部附属病院周産母子センターが中心となり、環境省が実施している「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)を実施しています。本調査は、全国で10万組の子どもたちとそのご両親を対象に実施されており、3年間の調査協力者のリクルート期間を経て、ご協力いただいたお母さんから生まれたお子さんが13歳の誕生日を迎えるまで、6か月ごとに継続的に調査を行っています。さらに、データの分析・解析を行い、研究成果を発表する計画になっており、調査開始から調査終了まで20年以上を要する長期の調査となります。平成22年度にスタートしたエコチル調査では、その第一段階として平成23年1月下旬から調査協力者のリクルート(参加者登録)が全国で順次開始されました。琉球大学(沖縄)サブユニットセンターの調査対象地域である宮古島市(宮古島は沖縄本島から南西に約300 Km離れたところに位置しています)においては、平成23年2月からリクルートを開始し、平成25年度末に予定数である913人のお母さんのご協力を得て、無事にリクルートが終了しました。平成26年10月には、宮古島市でのエコチル参加者すべての出産が終了し、現在、宮古島市のエコチル調査参加者(お母さん)から出生した最初のお子さん(エコチルベビー)は、6歳11か月になっています。(平成30年6月現在)

エコチル調査の長い道のりの第一段階のリクルートと出産を終え、平成26年度後期から第二段階に入りました。第二段階では、継続して6か月に1回のフォローアップを継

続するとともに、全エコチル調査協力者の5%(宮古島市では44名)の方々を対象に、さらに詳しい調査をさせていただく詳細調査(居住環境や生活環境についての訪問調査、医学的検査、精神神経発達検査)が開始されました。琉球大学(沖縄)サブユニットセンターにおいても、平成26年10月より詳細調査を開始しており現在、4歳の医学的検査・精神神経発達検査(平成29年4月～)を実施しています。さらに、来年度は小学校2年生を対象に8歳学童期検査の実施が予定されています。

また、長期にわたるエコチル調査の課題のひとつであるフォローアップ率の向上に向けて種々の取り組みをしており、これまでベビーマッサージ教室、市民公開講座、リトミック教室、親子フィットネス、市民参加型イベント(まいふかこどもまつり)等を実施してきました。さらに平成26年8月に広報誌「ちゅらちるだより第1号」を発行し、10月には「ちゅらちるブログ」を立ち上げました。現在、ちゅらちるだよりは第9号まで発行されています。今後もイベントなどを継続的に開催し、エコチル調査参加者との交流を深めフォローアップ率の向上に努めたいと思います。

このような国家プロジェクトである大規模出生コホート調査(10万人)に本学が積極的に関わり、ヒトへの化学物質の曝露と子どもへの健康影響(身体発育、先天異常、性分化の異常、精神神経発達障害、免疫系の異常、代謝・内分泌系の障害)の関連を明らかにし、未来の子どもたちの健康保持・増進と良質な成育環境の醸成のために調査を推進し社会に貢献できればと考えています。



親子フィットネス



まいふかこどもまつり

国際交流

琉球大学医学部は、我が国唯一の亜熱帯気候で、中国や東南アジアの国々と国境を接する沖縄県に立地する個性豊かな医学部です。また、世界的な趨勢である国際水準を満たした医学教育プログラムの導入にいち早く取り組んでおります。そのような特色を最大限に活かすべく、本学部では医学科、保健学科共に研究、教育、社会貢献の面で様々な国際交流が進められております。

はじめに、大学間または部局間の国際交流の一環として、①大学間交流協定(医学部提案によるもの)締結4大学(表1)、②医学部部局間交流協定締結11大学(表2)、③大学間交流協定に基づく医学部交流協定締結6大学(表3)を基盤にした活動があげられます。琉球大学全体または医学部での包括的な取り組みとして、学術面でいくつかの共同研究が実施されており、教員や学生の相互訪問等、教育の面での活用も年々活発化しております。また、個々の研究者の活動を基盤とし、日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)や日本医療研究開発機構(AMED)の研究費等を活用して、海外のフィールドまたは大学を含む研究機関との共同研究も年々活気を帯びております(表4)。

一方、学生教育面においては、ハワイ大学医学部クワキニ病院、タマサート大学医学部、台北医科大学(表3)、ミシガン州立大学との間で年に1-2名の学生の相互訪問・研修が実施されており、国際水準を満たした医学教育プログラムの達成へ向けて大きな成果を上げつつあります。平成28年度より開始された医学部医学科3年生を対象とした医科学研究プログラムにおいて、平成29年度は米国コロラド大学医

学部、シンガポールがん研究所にそれぞれ1名受け入れてもらい、約2カ月半の研究実習を行いました。一方、保健学科では部局間交流協定の下、学生の短期交換留学を活発に行っております。また学生サークル琉球大学医学部熱帯医学研究会(熱医研)が1985年より継続してきたチェンマイ大学医学部との学生交流の実績が認められ、平成29年度琉球大学長賞が授与されました(写真)。

社会貢献として、医学部附属病院の口唇口蓋裂センターでは、ラオスとエチオピアにおいて、貧困のために治療を受けられない口唇口蓋裂患者に対して無償手術と同時に、現地の医療スタッフに対する医療技術移転行ってきております。このように琉球大学医学部の国際交流は活発に展開されております。



写真1: チェンマイ大学学生と琉球大学学生の交流の様子

相手機関名	国・地域	締結年月日	概要
ラオス国立大学	ラオス	2005年5月19日	法文・医学提案、2007年医学部独立・2009年ラオス健康科学大学と大学間協定締結
延世大学	韓国	2005年10月18日	教育学部・医学部提案
延世大校	韓国	2008年1月16日	教員受入れ・派遣により各大学でセミナー、シンポジウム、講義等実施、共同研究等
ハノイ医科大学	ベトナム	2017年5月8日	医学・熱帯疫学

表1【医学部提案による大学間交流協定】

相手機関名	国・地域	締結年月日	概要
中山大学中山医学院	中国	1991年3月6日	中山医科大学と締結。その後中山医科大学が中山大学と合併
国立細胞・分子生物学研究所	インド	1998年11月10日	研究、教育面における交流
広西医科大学	中国	2001年12月18日	前学長、副学長：本学修了生
大連医科大学	中国	2002年6月26日	研究、教育面における交流
モンゴル保健総合大学	モンゴル	2006年10月24日	研究、教育面における交流
国立ケープタウン大学科学部	南アフリカ	2006年10月24日	ケープタウン大学教員、南アフリカ大使館が本学を訪問、その後協定締結の提案あり
台北医科大学	台湾	2014年2月18日	研究、教育面における交流
チェンマイ大学看護学部	タイ	2014年3月10日	保健学科学生短期交換留学
フィリピン大学公衆衛生校	フィリピン	2014年3月10日	保健学科を中心とした研究、教育面における交流
南洋理工大工学LX医学部	シンガポール	2017年9月20日	研究、教育面における交流
アイルランガ大学	インドネシア	2018年4月25日	保健学科を中心とした研究、教育面における交流

表2【医学部部局間交流協定】

相手機関名	国・地域	締結年月日	概要
ハワイ大学	米国	1988年11月7日	同大医学校との研究交流、共同研究、講演会、ワークショップへの教員、医師派遣等の実績あり。H21より「大学病院連携型高度医療人養成事業」による連携、学生交流、専門研修やセミナー等今後の連携についても協議を進めている。
チェンマイ大学	タイ	1989年12月18日	熱帯医学研究会(学生サークル)が中心となり、同大医学部学生と研究交流、相互訪問等の交流を長年行っている。
国立台湾大学	台湾	2003年4月2日	同大(医学部精神科)での合同シンポジウム開催(H16~H20 交互に開催)
タマサート大学医学部	タイ	2013年7月22日	研究、教育面における交流
フィリピン大学公衆衛生校	フィリピン	2014年3月10日	保健学科
ラオス健康科学大学看護学部	ラオス	2009年9月15日	同大と口腔衛生改善事業を通して総合的に人的交流を行っている。地域枠入学の本学医学部学生を派遣して同大で研修を実施。

表3【大学間交流協定に基づく医学部交流協定】

課題名	実施国	研究費
ベトナムにおける下痢症の研究	ベトナム	科研費 基盤研究(A)(海外学術)
バイカル古人骨のゲノム解析可能性調査	ロシア	科研費 新学術領域研究
コミュニティにおける薬剤耐性菌健康保護の意義解明と薬剤耐性菌監視ネットワークの試み	ベトナム	科研費 基盤研究(B)(海外学術)
ラオス少数民族の母子保健継続ケアの活用と関連する要因に関する介入研究	ラオス	科研費 基盤研究(C)(海外学術)
染色体薬剤耐性遺伝子を保持する薬剤耐性菌の分子疫学的解析	ベトナム、 インドネシア	AMED e-ASIA 共同研究プログラム
アジア低所得国における思春期メンタルヘルスに関する疫学的研究と政策提言に関する研究	フィリピン、 インドネシア	国立国際医療研究センター国際医療開発研究費
母子保健・思春期保健・精神保健と学校保健の連携と各国への政策還元・世界戦略策定に関する研究	韓国、中国、タイ、 インドネシア	国立国際医療研究センター国際医療開発研究費
SDGsに配慮した持続可能なマラリア制御戦略低減のための研究	ラオス	国立国際医療研究センター国際医療開発研究費
アジアにおける高齢化社会に対応したヘルスプロモーションに関する政策と指標に関する研究	韓国、中国、タイ、 インドネシア	国立国際医療研究センター国際医療開発研究費

表4【海外における研究活動】(代表研究のみ)(抜粋)